キューブ新体操教室・男子が
「全日本ジュニア新体操選手権大会」に団体競技＆個人競技で出場

10月22日・23日　代々木第一体育館(東京)に挑む

8月13日・14日に岩手県北上市で開催された「全日本ジュニア新体操選手権大会」東北ブロック予選会で、キューブ新体操教室が男子団体競技と個人競技で全国への出場を決めた。団体競技は2年振り3回目、個人競技は3選手が出場。全国大会は10月22日・23日の2日間、東京の代々木第一体育館で開催され、東北の代表として全国に挑む。

全国大会への切符を掛け東北大会に挑んだキューブ新体操教室男子。団体競技は上位3チーム、個人競技は上位5選手が全国へ進むことができる。東北の強豪が集う中、キューブ新体操教室は団体競技で堂々の2位。個人競技は、昨年の全国大会を経験した佐藤綾人くんが見事優勝。二男の颯人くんが4位、三男の嘉人くんが5位に入賞し、三兄弟がそろって全国大会出場を決めた。

団体競技の演技時間は約3分。採点は構成10点、実施10点の合計20点満点で行われ、動きの同時性や組み合わせ方、タンブリング(宙返りなどの回転技)の難度、ミスの有無などが採点の基準となる。一人一人の技術はもちろん、6人の息を合わせることが重要となってくる。

昨年は惜しくも全国出場を逃した団体競技。競技は6人で行うが、登録選手8人が練習から互いに切磋琢磨して技を磨き、東北大会では大きなミスなく演技をすることができた。

全国大会に向け、大槻真平くん(東中2年)は「誰が出ても良い結果が出せるよう必死で練習しています」と、全国での活躍を力強く誓ってくれた。

個人競技は団体競技と違って、クラブ、スティック、リング、ロープの4つの手具を使用し、演技時間はそれぞれ約1分30秒。種目ごとに構成5点、実施5点の合計10点満点で行われる。昨年までは2種目の合計点で競っていたが、今年の全国大会から4種目の合計点で競うことになる。佐藤3兄弟ともリングの使用は初めてであり、約2カ月でリングの演技を習得しなければならない。ほかの3種目と団体競技の練習もあるため、3選手への負担はこれまでよりも大きいが、東北の代表として全力で立ち向かっている姿から頼もしさを感じる。

これまで選手たちは互いに励まし、時には厳しく指摘し支え合いながら練習に取り組んできた。本番まで残りわずか。全国の壁は高いが、白石で培った力をすべて出し切り、華麗に、そして、力強く羽ばたいてほしい。

全日本ジュニア団体競技＆個人競技に臨む三つ子の佐藤3兄弟にインタビュー　― Interview ―

佐藤 綾人くん
Ayato Sato
東北大会 個人総合優勝

東北大会は練習の成果が出せたのでうれしかったです。全国大会は種目が増えて大変ですが、先生に教えてもらったことをしっかり意識して、自分が満足できる演技をして優勝を目指して頑張りたいです。

佐藤 颯人くん
Hayato Sato
東北大会 個人総合4位

個人競技は初めての全国大会出場なので、先生に教わったことをしっかりできるようになって、優勝目指して頑張りたいと思います。団体競技も技の難度を上げてみんなと息を合わせて、いい点数を取りたいです。

佐藤 嘉人くん
Yoshito Sato
東北大会 個人総合5位

東北大会の個人競技はミスが多かったので、たくさん練習して優勝できるように頑張りたいと思います。団体競技は、動きを合わせながら、一人一人の動きとタンブリングの難度を上げて全国に臨みたいです。

成海諒也(なるみりょうや)くん(東中3年)が
「空手道糸東会(しとうかい)全国大会」で初優勝
「全国中学生空手道選手権」男子個人組手でも3位に

Boys, be ambitious! So,Dreams come true.

夢はインターハイ優勝　そして、世界へ

5歳で空手を始めてから約10年。コツコツと練習を積み重ねた成果が、初の「全国制覇」という栄冠をもたらした。8月14日・15日に東京で開催された「空手道糸東会全国大会」中学2・3年生の部で、東中3年の成海諒也くんが初優勝を手にした。

糸東会は成海くんが所属する空手の流派で、昨年の大会はベスト16。「今年こそは」と臨んだ大会は、出場68人の中で念願の頂点に立つことができた。

また、8月19日〜21日に群馬県前橋市で行われた「全国中学生空手道選手権」男子個人組手では、3位に入る活躍を見せた。

全国中学生大会は流派を超えた大会。各都道府県予選を勝ち抜いた精鋭109人が出場し、トーナメント方式で優勝を争った。5人を勝ち抜いた後の準決勝で3—5と惜しくも敗れたが、堂々たる成績を収めた。「足技を繰り出したすきを狙われてポイントを許してしまった。悔しいです」と、成海くんは準決勝での戦いを振り返る。

成海くんが空手を始めた5歳のときから指導してきた、白石空手道協会長の我妻勇(あがつまいさむ)師範は、「小学2年生ごろから才能を開花させ、どんどんと頭角を現してきた」と語る。

水・土曜日の流派の練習日のほかにも、スポーツメイト白石蔵王で総合的なトレーニング指導を受けている。「試合でポイントを取って勝ったときもうれしいけど、練習も楽しい」と成海くんは話す。

来春には高校進学を控える成海くん。「高校1年生からインターハイに出場したい。できれば優勝を目指したいです」と、静かな口調にも力強さをにじませながら抱負を話してくれた。

全国トップレベルの選手として、空手を通じて学んだ礼の心と得意の上段蹴りで、これからも自らの未来を切り開いていってほしい。

●空手(組手)
試合時間1分30秒、6ポイント先取制。突きは1ポイント、中段蹴りは2ポイント、上段蹴りは3ポイントとなる。

▲9月6日、市役所を訪れさらなる活躍を誓った